

新潟焼山の火山活動解説資料（平成 28 年 3 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

新潟焼山では、2015 年夏頃から噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12 月下旬からは噴煙量も多くなっています。また、地震回数も 2015 年以降やや増加しています。
今後の火山活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2、図 3－①）

新潟県土木部砂防課が焼山温泉（山頂の北北西約 8 km）に設置している監視カメラによる観測では、昨年（2015 年）夏頃から、山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、一時的には火口縁上 400m 以上まで上がっています。また、昨年（2015 年）12 月下旬からは噴煙量も多くなっています。

・地震や微動の発生状況（図 3－②、図 4～5）

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。2015 年以降の地震回数は、2014 年以前と比べてやや増加しています。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 1、図 3－③④）

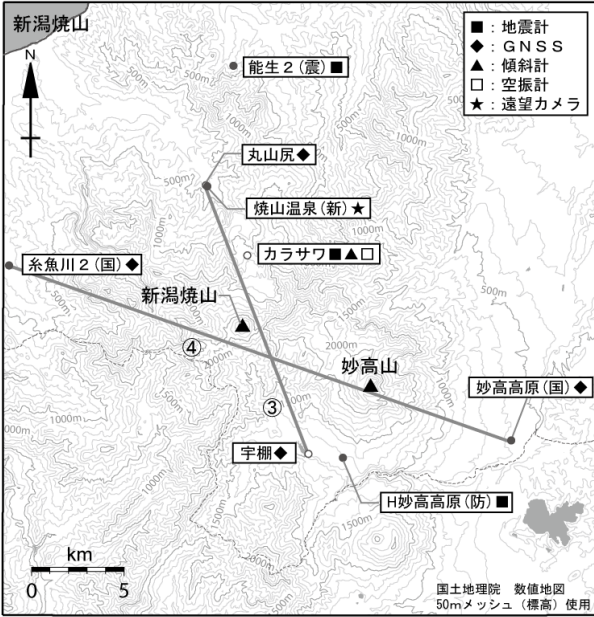
GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 4 月分）は平成 28 年 5 月 12 日に発表する予定です。

この資料は、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び新潟県のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図
(GNSS 基線③④は図3の③④に対応しています。)



図2 新潟焼山 山頂部の状況
(3月17日 焼山温泉監視カメラによる)

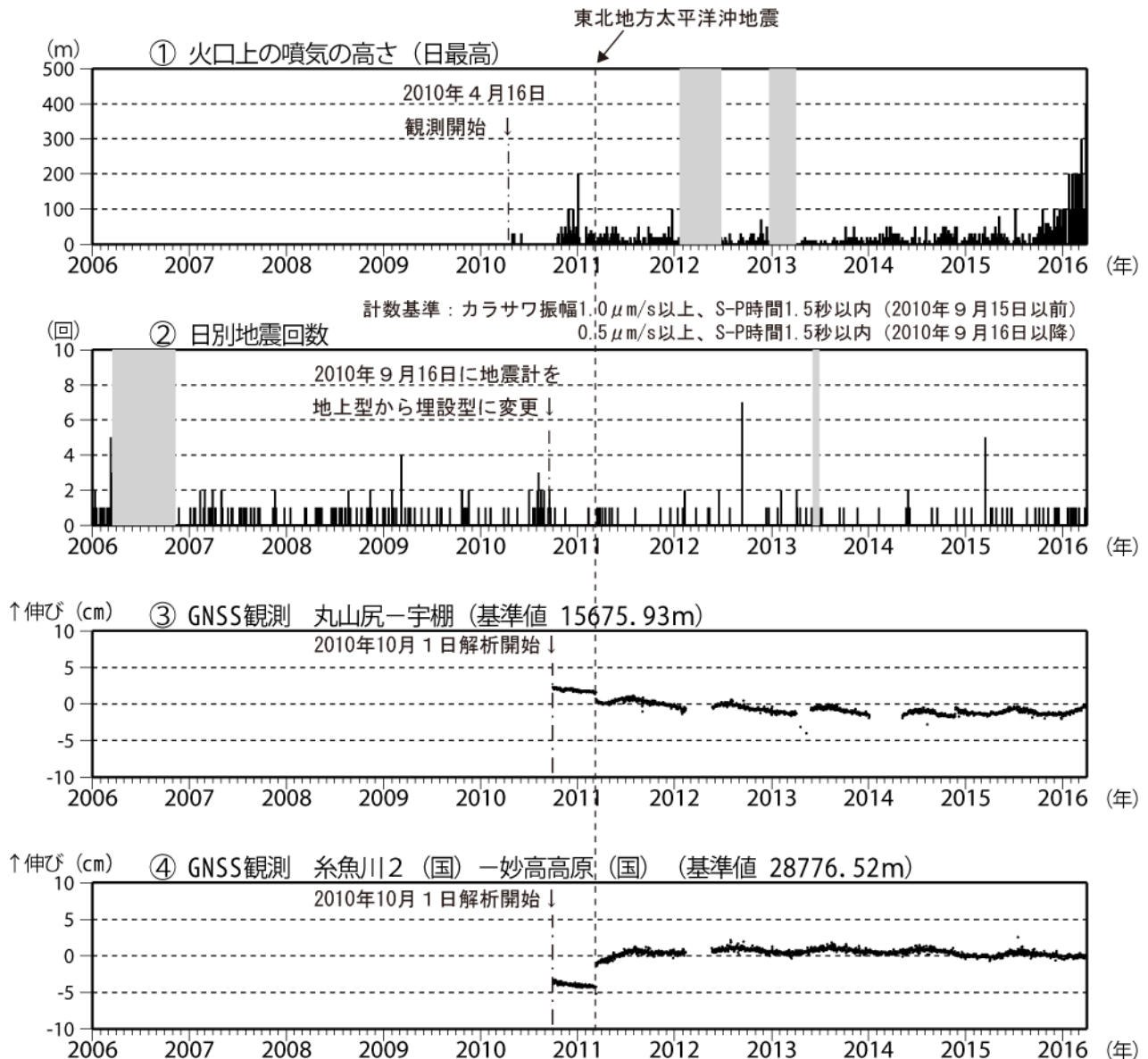


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2016年3月31日）

- ①：定時観測（09時・15時）による日別最高の噴気の高さ
 - ・昨年（2015年）夏頃から噴煙の高さがやや高く上がる傾向がみられます。
 - ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ②：日別地震回数
 - ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ③④：GNSS連続観測結果（国）：国土地理院
 - ・③④の基線には、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。
 - ・③④は、図1のGNSS基線③④に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を示します。

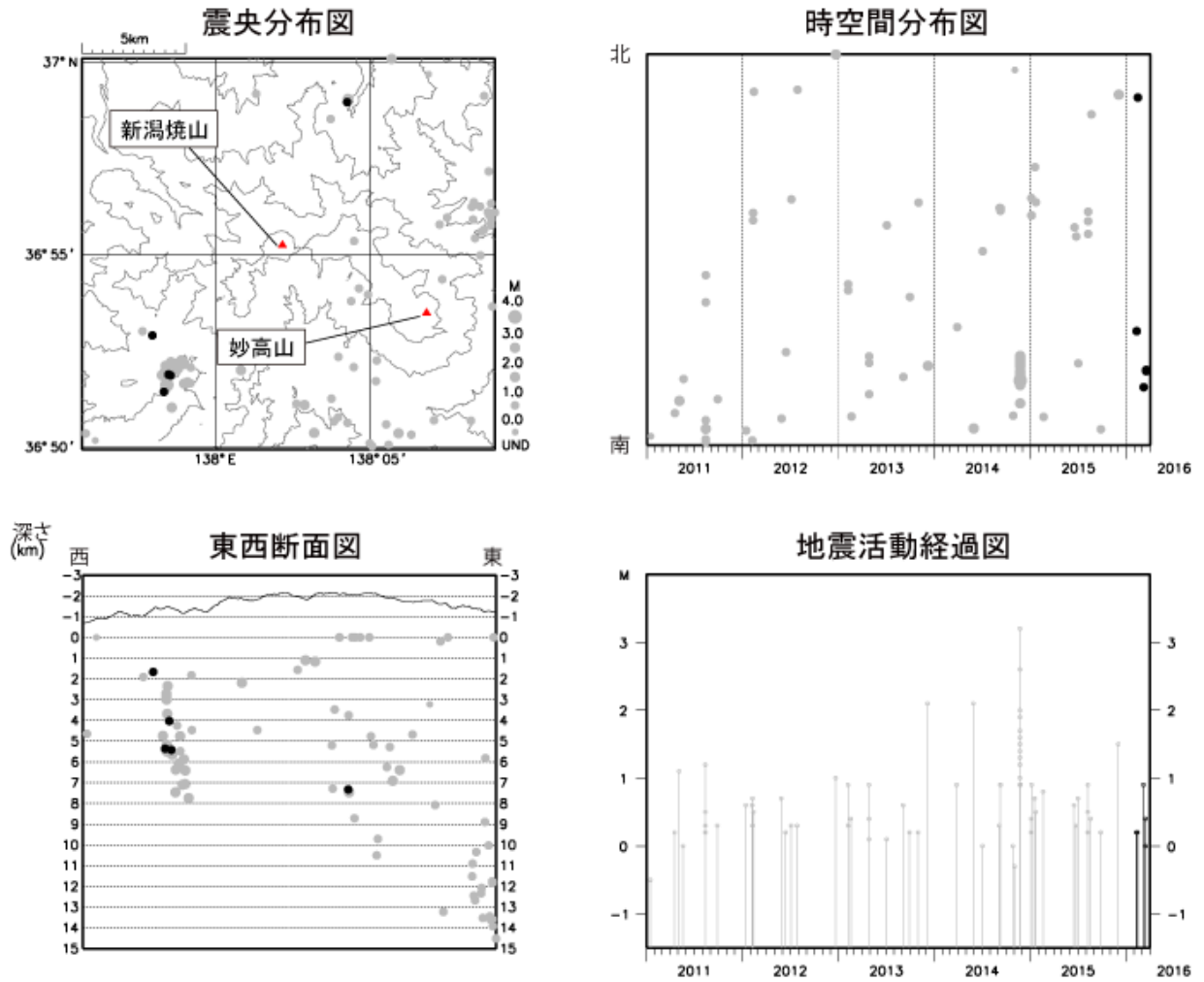


図4 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

- ：2011 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日 ●：2016 年 1 月 1 日～3 月 31 日
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

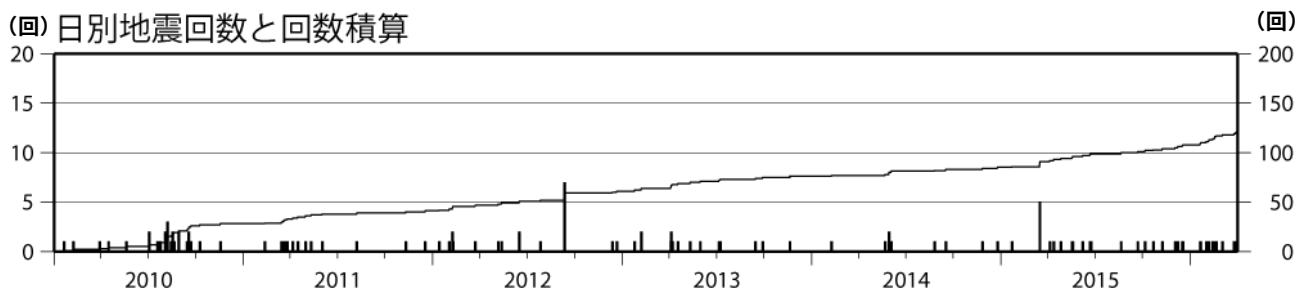


図5 新潟焼山 日別地震回数と回数積算（2010 年 1 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

左軸は日別地震回数、右軸は積算回数

- ・ 地震回数は、2015 年 3 月以降 2013～2014 年頃と比較してやや増加しています。